

# 第56回選手権大会支部予選

スポーツ報知

2025年(令和7年)6月21日(土曜日)

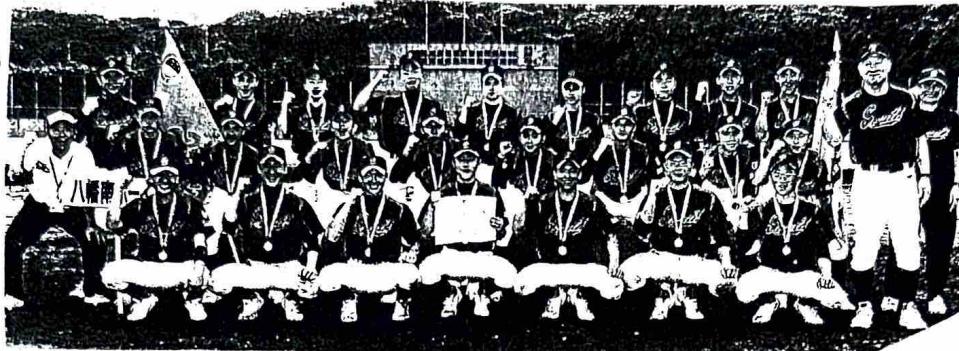


## 報知 ソフトボール

# 八幡南

春夏連続

# 全 国



【中学】北九州支部予選 準決勝、決勝  
15日 福岡トヨタ的場スタジアム

春夏連続で全国大会に出場する八幡南

	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南
小倉	0	0	0	0	0
春田、佐野、吉永、井土【小】	2	1	0	0	1
川上(小)	0	0	0	0	0
家村、富坂、家村【春田(八)】	0	0	1	0	0
▼決勝	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	4

	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南
原田司	0	0	0	0	0
原田、吉永、井土【福】	0	1	0	0	2
柳	0	0	0	0	0
▼準決勝	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	3

	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南
原田宗	0	0	0	0	0
野田、川坂、本井土(八)	0	0	0	0	0
吉	0	0	0	0	0
▼準決勝	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0

	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南
山口・小倉東	4	0	3	2	4
春田、吉永、井土【八】	0	0	0	0	0
岡	0	0	0	0	0
▼1回戦	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0

	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南
井土【山】	4	0	3	2	4
河口、盛重【川崎本井	0	0	0	0	0
土(八)	0	0	0	0	0
▼2回戦	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0

	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南	八幡南
原田、佐野、吉原、花元	4	0	3	2	4
春田、松永、原田、井	0	0	0	0	0
土(八)	0	0	0	0	0
(4回)準決勝	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0

持ち味出せた!

八幡南は準決勝の福岡門司戦でも最終回に決勝点を入れた。1-1で迎えた7回に先頭の吉原が二塁打で切り開き、石橋凌真の犠打で1死3塁。続く9番の大山駒大が左前に運んで1点を奪うと、吉永の適時二塁打で追加点を挙げた。決勝打の大山は「逆方向へ打つのが得意なので持ち味を出せた」と喜んだ。



準決勝の7回、適時打を喜ぶ八幡南・大山

「チームのために」  
原田が気合の決勝打

最終回の1点の差で、八

幡南ナインが培ってきた経験と自信、そして勝利への執念の違いが表れた。小倉

と/orの決勝は、6回を終えて3-3。両チームとも7回

の攻撃は1番から。先頭が

出塁し、次打者が送りバントを決めたシチュエーションはどちらも同じ。しかし、

7回のスコアボードに得点が刻まれたのは先攻めの八

幡南だけだった。

先頭の吉永凌真が死球で

7回のスコアボードに得点が刻まれたのは先攻めの八幡南だけだった。

吉原悠介の犠打で1死1塁。3番の原田宗将は

「(5回)の適時打はボテンヒットで」、まともなヒット

を打てていなかつたので、

チームのために一本打ちをかかった」。相手エースの富

坂侑が直球で勝負してくる

と読み、2球目の直球を振り抜いた。鋭い打球は右前へ。二塁走者の吉永が俊足を飛ばして還塁した。3

回裏は1死1塁と一打

同点のピンチを迎えた。

番手投手の吉永は「悔いが残らないよう、出し切ろうと思つた」と全力で腕を振り、三振と右飛に仕留めて1点のリードを守つた。徳

野晴美監督は「どうなるかと思ったがここ一番の粘りが勝った。よく頑張ってくれた」と笑つた。

再び上昇カーブを描いた。チームは昨秋から今年2月にかけて優勝5回と圧倒的な戦績を残したが、3月の春季全国大会を終えた後は3大会に出現して一度も準決勝に勝ち上がりせず、足踏みしていた。成田大倭主将は「一人ひとりの勝ちたいという思いが欠けていた」と苦戦した理由を明かす。対戦相手も力をつけてきて、昨秋のような横綱相撲はできなくなつた。

じに負けてない

全国大会へ強い思い

それでも、全国大会への思いはどこにも負けていなかつた。全国制覇を目指に掲げながら3回戦で敗れた春の悔しさを晴らしたい。

皆が強い気持ちで試合に臨んだことが接戦での強さにつながつた。「全員で一つになつて日本一を目指して突き進む。

指す」と成田主将。強さを取り戻した八幡南ナインが